

令和元年度 極楽苑事業報告

1.事業の実施状況

令和元年度は、全体での大きな取り組みとして、社会福祉法人長寿の里と高齢者福祉施設香流川の事業所譲渡が行われました。特別養護老人ホーム極楽苑において、かねてより準備を進めてきた地域の医療ニーズや看取りケアに対応するための「医療対応型フロア」がオープンし、慢性期の医療や看取りの方のセーフティーネットとして円滑に機能し始めました。事業を整理し、サービス内容をスマートにしたことで、今までの取り組みの課題や運営の方向性が明確になりました。

介護事業面では、効率的な人員配置を行いながらもケアの質を保つことができるよう、ミーティングや多職種間の連携の強化を行いました。特に在宅サービスのデイサービスやショートステイでの向上が見込まれ、安定したサービス提供が可能となってきました。特別養護老人ホームでの医療対応型フロアの活用については、医療面が充実したことで退居者が減少し、稼働率も向上しました。訪問介護と居宅支援事業については、効率的な運営は難しく、事業は縮小傾向となりました。地域福祉での必要性や事業の特徴を活かした情報収集など、事業という枠を超えた役割を果たしました。

人事面では、以前からの課題であった人材確保において、名東区近隣の有効求人倍率が全国平均を大きく上回っている中、即戦力となる介護パートの採用が前年度を上回りました。新卒採用についても新卒ナビ・新卒向け自社パンフレット・ホームページを活用し、施設説明会までの流れを確立できました。売り手市場の厳しい中であって、2名の大卒者を採用することができました。

地域活動面では、「認知症カフェ」「世代間交流」「中学生学習支援」「ボランティアの受け入れ」などを継続的に行いました。これらの活動は、地域福祉として広く浸透し始めており、介護保険事業以外の重要な取り組みとなりました。